

2018年7月26日

高島市長

福井 正明 様

猛暑による人的被害を出さないための支援を求める要請

日本共産党高島市議団

福井 節子

森脇 徹

日頃は、市民の福祉の向上にご尽力いただいておりますことに、敬意を表します。さて、今年は大きな災害をもたらした梅雨が明けた直後から、例年にない高温・灼熱の猛暑日が続いています。全国で熱中症で運ばれる人が出ており、毎日のように亡くなったというニュースも流れている状況です。

高島市内でも「エアコンなしで去年までは何とかしのいできたが、今年の暑さはただ事ではなく、どうにかなりそう」「エアコンが壊れている。暑くて眠られず、体調が悪い」などの声が議員団に寄せられ相談に対応する事例が急増しています。とりわけ、高齢世帯・生活保護世帯など生活弱者に、酷暑にかかるきめ細かな対応が緊急に行政に求められています。

「40度近い酷暑は災害」旨の国対応が発信される中、生活保護世帯での冷房装置が未設置世帯への「クーラー本体に5万円上限に支給、工事費は別途実費支給」の対応が厚労省から通知されました。必要な措置です。しかし、この措置だけでは、多くの低所得・生活困窮世帯への対応には不十分で、下記の対応を求め要請するものです。

記

- 1, クーラー本体購入においては、6畳対応で65000円～70000円が市況です。国支給額に加え、市県で15000円以上の独自助成が必要です。まずは市独自で1万円の独自措置を要請します。市独自で助成しながら、県に対し必要額の支援を要請すること。

2. 市民の多くは生保世帯以外の低所得世帯（住民税非課税世帯約5300世帯）であり、ここでのクーラー未設置世帯があります。とりわけ福祉・介護支援策を受けている高齢世帯の猛暑対応策の必要性有無を早急に調査・把握し、健康対応など相談にのること。

生保世帯以外のクーラー未設置世帯への助成の検討に入ること。

3. 生活保護世帯でのクーラー設置、生保以外の低所得世帯でのクーラー設置において、公的支援以外の設置工事費など自己負担額で、自己資金が不足し公的貸付けに頼らざるを得ない世帯は、社会福祉協議会扱いの小口生活貸付資金が有効に早い対応での措置がなされるよう助言すること。借入金がたとえ数万円であっても、月々の返済が数千円以下ですむよう配慮を要請されたい。貸付枠に不足が生じる場合、市が市社協に独自支援するなど考慮されること。

4. クーラー設置がある場合でも、電気料金の高額請求に耐え切れずに、クーラー使用を節約する低所得・高齢世帯がある。こうした心配をせずともよいよう、関西電力に「高齢世帯のクーラー長時間使用月の電気代10%割引制度を実施されるよう」高島市として申し入れをされたい。

九州電力は23日、記録的な猛暑が続く中、冷房や扇風機を積極的に活用し、熱中症を防いでもらおうと、75歳以上の高齢者がいる世帯の8、9月分の電気料金を10%割り引く「お年寄り応援プラン（熱中症予防プラン）」を創設したことを発表しましたが、全国の電力会社が対応されるべきです。

以上